

令和7年度 第4回大府市協働推進委員会 会議録

- 開催日時 : 令和8年3月15日(日)午後3時40分から午後4時20分まで
開催場所 : 大府市民活動センター「コラビア」会議室
出席者 : 昇協働推進助言者、
深谷委員長、鈴木副委員長、成田委員、加藤委員、櫻井委員、
宮田委員、亀山委員、山口委員
事務局(部長、課長、係長、主事)
規則第8条第4項の規定により説明のため出席を求めた者(大府市民活動センター長)の計14名
欠席者 : なし
傍聴者 : なし

(司会・進行:協働推進課長)

1 あいさつ(委員長)

本日は、2年任期の最後の委員会である。委員会として、来年度以降より良くなるよう、意見を出していただきたい。

2 議題

(1) 大府市民活動センター令和7年度実績(見込み)について

大府市民活動センター長から、令和7年度実績(見込み)について、資料No.1に基づいて説明

- ・コラビアまつりは、合計で約2,000名が来場した。
- ・ワンデイシェフは、101回の開催をもって今年度の実施を終了する予定である。
- ・3月15日(日)時点で、相談件数は570件、マッチング件数は56件である。

【質疑応答】

委員:実績報告会の中で、施設の予約が難しいとの話が団体からあった。特定の団体が同じ曜日や時間に利用している場合、新規団体が予約を取りづらくなるのではないかと思うが、何か工夫はしているか。

センター長:現在は、2か月前から先着順で予約を受け付けている。空いている時間帯に予約を入れて利用している団体もある。古くから利用している団体に譲ってもらうべきという考え方にも課題があると感じている。何をもって公平とするかは難しく、長年の課題であると認識している。

(2) 令和8年度大府市民活動ボランティアセンターの運営について

事務局から、令和8年度大府市民活動ボランティアセンターの運営について、資料No.2に基づいて説明

- ・社会福祉協議会の総合ボランティアセンターを統合した市直営での運営に移行することで、施設の効率的な管理及び運営を行う。
- ・総合ボランティアセンターと統合したワンストップ窓口を新たに設置し、市民活動団体等の困りごとを一元的に管理することで、団体の支援及びマッチングにつなげる。
- ・市民活動・ボランティア活動団体、自治区・コミュニティ等の活動情報を収集し、様々な媒体を使って発信することで、活動の周知及び連携を図る。

- ・市民活動・ボランティア活動の普及推進及び活動団体の運営スキルの向上を図るため、活動発表の場となるイベントや研修・講座を開催する。
- ・市民活動・ボランティア活動団体、自治区・コミュニティ等の相互交流の機会を創出する。

【質疑応答】

- 委 員：これまで社会福祉協議会が行っていた事業を市が担うことになるのか。また、担当部署はどこになるのか。
- 事 務 局：総合ボランティアセンターは市の事業として実施することとなる。協働推進課がコラビアに勤務し、運営を担っていく予定である。
- 委 員：災害ボランティアセンターはどのようになるのか。
- 事 務 局：災害ボランティアセンターは、国・都道府県・市町村の社会福祉協議会が連携して担うものであるため、大府市においても社会福祉協議会の事業として引き続き実施される予定である。
- 事 務 局：PRが十分にできていないが、広報おおぶ3月号に組織改正について掲載している。来年度は団体との関係づくりに取り組んでいく予定である。

(3) 令和8年度協働企画提案事業交付金応募要項について

事務局から、令和8年度協働企画提案事業交付金応募要項について、資料No.3に基づいて説明

- ・事業例に「昭和に学び次世代に伝承する取組」を追加
- ・提出先を大府市民活動ボランティアセンターに変更
- ・交付金の予算は令和8年度も100万円を総額とする。

【質疑応答】

- 委 員：前年度の要項から大きな変更はないか。
- 事 務 局：大きな変更はない。

(4) 令和8年度NPO法人立ち上がり支援事業補助金応募要項について

事務局から、令和8年度NPO法人立ち上がり支援事業補助金応募要項について、資料No.4に基づいて説明

- ・設立手続きに必要な経費、賃借料や通信運搬費などを補助
- ・提出先を大府市民活動ボランティアセンターに変更
- ・その他、令和7年度の応募要項からは変更なし

【質疑応答】

- 委 員：kimyo-na-manulがNPO法人立ち上がり支援事業に応募した場合、教育の機会をつなぐ三つ葉と合わせて2団体の応募となるが、2団体ともに補助金を交付できる予算は確保されているのか。
- 事 務 局：毎年、2団体分を交付できるよう予算を確保している。

3 その他

- 委 員：実績報告会の中で、学校の体育館を借りるのが難しいとの話があったが、愛三スポーツセンターの体育館は借りられないのか。団体から直接企業に問い合わせるのはハードルが高いと思われるため、市から企業に声をかけることはできないか。
- 事 務 局：金銭的な支援以外にも、団体が必要としている支援があると認識している。愛三工業株式会社の社員と話す機会があるため、その

際に話題として取り上げていきたいと考えている。

助言者：運営が愛知ネットから市へ変更となったことについて、市民や職員にとってどのような影響があったのか、1年間の実績を来年度末に報告してほしい。

事務局：常に最適な運営を続けていくことは難しいと考えているが、さまざまなことに挑戦していきたい。来年度の委員会の中で実績を示し、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えている。

委員：公開審査会の際に、審査について話し合う時間を設けていただいたが、もう少し進行をスムーズにしてほしい。今年度は話し合いの時間はあったものの、その結果で得点を変更した委員はいなかったのではないかと思う。話し合いの内容が最終的な採点に反映されるようにしてほしい。

事務局：来年度、よりスムーズに進行できるよう改善する。

●事務局から

・今回の審議会の謝礼は、後日お振込みさせていただきます。

●委員長から

6年間協働推進委員を務め、そのうち4年間は委員長を務めた。就任当初はわからないことも多く、先輩委員の皆様に教えていただいていた。また、昇先生の講評をいつも楽しみにしていた。任天堂の岩田社長の言葉に「アイデアとは、2つの問題を同時に解決するものである」というものがある。多様な背景を持つ委員が集まるこの会議において、今後も多くのアイデアが生まれ、本市がより良いまちとなっていくことを期待している。

—以上—